次世代モビリティオープンイノベーション協議会

■ 産学官金・地域の交流の場

群馬大学は2016年12月に、次世代の移動手段を研究する次世代モビリティ社会実装研究センター(CRANTS)を設立した。研究をもとに新しい交通システムの実証と社会への普及を目指している。

CRANTSが、研究テーマの一つである完全自動運転車両システムの社会導入に向けて、産学官金および地域との交流の場として2017年５月に設置したのが次世代モビリティオープンイノベーション協議会である。産業界からは自動車、部品製造、金融、保険などさまざまな企業が参加している。

写真①　交流の場となっているCRANTS見学会

写真②　自動運転車両の車両見学会

研究会開催のほか、自動運転車両の試乗会、施設見学会などを行っている。年１回の総会では、CRANTSの研究・実証と連携企業・行政の取り組みの成果を総括。

総会や見学会には毎回多数の参加者があり、活発な意見交換で盛り上がる。先進的な技術研究の動向がわかる、との評価がある一方、「交通機関の事業者や地域住民、将来利用する人の要望や懸念を取り込める場にしてほしい」といった声も寄せられる。

■ 専門家を招き研究会

研究会は、専門的な活動を希望する企業や行政が対象。要素技術開発研究会(幹事：太田直哉センター長)、製造・生産システム研究会(同：小木津武樹副センター長)、社会実装連携研究会(同：天谷賢児副センター長)の３研究会があり、３か月に１回、持ち回りで開催している。各研究会は、それぞれのテーマに沿って最新の動向や課題に関する専門家を講師として招いている。最近は、「ローカル ５G や生成 ＡＩが導入されたモビリティの未来像を考える(社会実装研究会2023年11月)」、「産業に貢献する知能ロボットの将来像(製造・生産システム研究会2023年10月)」など幅広いテーマを設定して議論している。社会実装を目指しているため、専門的かつ真剣な質疑が行われる。

写真③　研究会での講演会

CRANTSの太田センター長は「今後、体験型イベントやワークショップといった参加型イベント開催を増やし、CRANTSをこれまで以上に地域に開かれた場にしたい」と語る。“開かれた群馬大学”をアピールするためにも、さまざまな企画で産学官金そして地域住民との交流・協力を深めていく方針である。

(研究・産学連携推進機構研究URA室　URA(リサーチ・アドミニストレーター)平渡末二)